

30℃をこえる真夏や猛暑日が続くこの頃、磯浜では潮が引くと長時間干上がることになる高い位置にくらす生き物たちはどうしているのでしょうか？先日見かけたアラレタマキビやシロスジフジツボなどの様子をお伝えします。

写真1はアラレタマキビですが、4個体が上に積み重なっています。コンクリートの表面はかなり高温になっているはずで、一番下の貝は粘液を出して貝殻を固定し、つま先立ちで熱さに耐えているのでしょう。次に、貝殻の上の方が温度が低いを知っている別の貝がその上に乗り、さらにその上に別の貝が、という具合に積み重なっていったと想像できます。ちょっと笑える光景ですが、彼らにとっては必死の行動なのでしょう。

写真2のシロスジフジツボですが、壁にはりついて動けないので日陰に避難することはできません。おそらく数時間は炎天下にさらされることになりますが、シロスジフジツボはフジツボの中でも乾燥に耐える力が強い種類で、殻を閉じる4枚の板をしっかり密着して内部の水分が蒸発しないように工夫していると考えられます。

その他の生き物たちも石の下や砂の中にもぐるなどの対策をしているようですが、ハクセンシオマネキは暑さ知らずで、砂の上のエサをさかんに口に運んでいました。ちなみに、ハクセンシオマネキの場合水分補給は、歩脚の付け根にある毛を湿った砂に押し当てて行うそうです（写真3）。



写真2



写真3